

平成 20 年 3 月 1 日

日本水環境学会九州支部国内会議助成報告

「第 11 回日本水環境学会ノンポイント汚染研究委員会ワークショップ公開シンポジウム」

佐賀大学有明海総合研究プロジェクト 山本 浩一

佐賀大学理工学部機能物質化学科 原田 浩幸

このたび、上記シンポジウムに関して日本水環境学会九州支部から国内会議開催支援として 5 万円の助成を賜りましたので下記ご報告させていただきます。

シンポは、雨水や地下水として海や川に流れ込む大気汚染物質や、肥料などの影響を調査する日本水環境学会ノンポイント汚染研究委員会（委員長・國松孝男滋賀県立大学教授）が開いた。

去る平成 19 年 9 月 5 日に佐賀県青年会館（佐賀市）で公開シンポジウム「わが国におけるノンポイント汚染研究の到達点と有明海流入負荷把握への課題」（主催：日本水環境学会ノンポイント汚染研究委員会、共催：日本水環境学会九州支部、佐賀県、有明海再生機構、佐賀大学有明海総合研究プロジェクト）が実施されました。

謝辞

本シンポジウムならびに関連ワークショップ開催にご尽力いただいた福岡県保健環境研究所各位、長崎県各位、ご参加いただいた九州支部会員各位に感謝申し上げます。

このシンポジウムは、有明海流域からの汚濁負荷把握について最新の知見をもとに意見を交換する目的で開催されたものです。冒頭に日本水環境学会九州支部（福岡大学山崎副支部長）からの挨拶がありました。



前半は 3 名の研究者による講演
（写真：浮田正夫山口大学名誉教授）

シンポジウム前半はノンポイント汚染研究の黎明期から 30 年以上研究を継続されてきた市川新博士（元福岡大学教授）、浮田正夫博士（山口大学名誉教授）、橘治國博士（元北海道大学助教授）の 3 名の研究者を迎え、水質汚濁研究の歴史と最新の知見が講演されました。

シンポジウム後半ではコーディネータに楠田哲也教授（北九州市立大学）を迎え、坂本清一氏（環境省）、白谷栄作氏（農村工学研究所）、朝田将氏（国交省九州地方整備局）、海老瀬潜一教授（摂南大学）、速水祐一准教授（佐賀大有明プロ）によるパネルディスカッションが行われました。



全国から合計 128 名の参加があった

シンポジウム参加者は合計 127 名にのぼり、学会関係者 82 名（うち学生 48 名）に加え、学内外から 45 名の参加を得ました。会場では大変活発な討論が行われました。本シンポジウムは平成 19 年 9 月 4 日付の読売新聞に掲載予告が掲載されたほか、記事が佐賀新聞（平成 19 年 9 月 6 日付）上で紹介されました。



パネルディスカッションの様子

（佐賀新聞 平成 19 年 9 月 6 日付 23 面より）

海や河川の環境汚染の現状や研究の方向性を探るシンポジウムが 5 日、佐賀県の県青年会館であり、研究者や環境省の担当者が、パネルディスカッションで意見を交わした。パネリストは有明海の干潟の生態系を研究する速水祐一助教授らが努めた。海域汚染への影響研究のため、長期的なデータ蓄積や年間を通じた観測の必要性を提言。今後の課題として、重金属や有機物の流入量分析の精度向上や、河川の浄化機の再評価などを指摘し